

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は 113 ~ 114 円台でのみみ合いか

[1月24日からの1週間の展望]

| 週間高低 (カッコ内は日) | | 1月17日~1月21日 | | | |
|-----------------|-----------|-------------|------------|--------|---------|
| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 | 前週比 |
| ドル・円 | 114.11 | 115.06(18) | 113.63(21) | 113.84 | -0.35 |
| ユーロ・ドル | 1.1410 | 1.1434(17) | 1.1301(21) | 1.1327 | -0.0084 |
| ===== | | | | | |
| 国内株・金利 / 米国株・金利 | | | | | |
| | 終値 | 前週末比 | 終値 | 前週末比 | |
| 日経平均株価 | 27,522.26 | -602.02 | 日本10年債利回り | 0.136 | -0.007 |
| ダウ平均株価 | 34,715.39 | -1196.42 | 米10年債利回り | 1.804 | +0.020 |
| ===== | | | | | |

<来週の主要経済統計等>

- 24日 独1月製造業PMI速報値、独1月非製造業PMI速報値
ユーロ圏1月製造業PMI速報値、ユーロ圏1月非製造業PMI速報値
英1月製造業PMI速報値、英1月非製造業PMI速報値
米1月製造業PMI速報値、米1月非製造業PMI速報値
- 25日 豪第4四半期消費者物価指数
独1月ifo景況感指数
米11月S&Pケースシャー住宅価格指数、米11月住宅価格指数
米1月消費者信頼感指数(コンファレンスボード)
国際通貨基金(IMF)が世界経済見通し発表
- 26日 NZ12月貿易収支
日本11月景気動向指数改定値
カナダ中銀(BOC)政策金利
米12月新築住宅販売件数
米連邦公開市場委員会(FOMC、25~26日)・政策金利発表
パウエルFRB議長記者会見
- 27日 NZ第4四半期消費者物価
米第4四半期国内総生産(GDP)速報値
米新規失業保険申請件数、米12月耐久財受注速報値
- 28日 豪第4四半期生産者物価指数
独第4四半期国内総生産(GDP)速報値
米第4四半期雇用コスト指数
米12月個人所得・個人支出
米1月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】米国での複数回の利上げやバランスシートの縮小は実施される見通しであり、ドル円は113円を割り込んでの大幅な崩れはなく、下げが一服した後は再び上昇に転じるとした。

【FOMCに注目】

1月25~26日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が開催される。FOMCメンバーからはこれまでにインフレ抑制のために金融正常化や利上げ、バランスシート縮小に関して前向きな発言が相次いだ。そうした中、ハト派とされるシカゴ連銀のエバンズ総裁は今年3回、ないしは4回の利上げを想定しているとの認識を示した。また、同じくハト派として知られる米連邦準備制度理事会(FRB)のブレイナード理事は米上院銀行委員会の副議長承認公聴会でインフレの抑制がFRBの最優先課題との認識を示した。

今回のFOMCでは3月の利上げに向けた地ならしが行われるかが注目される。市場では利上げは年4回との見方も広がりつつあり、3月利上げが現実味を帯びている。市場では0.25%の利上げ予想が大方の見込みとなっているものの、中には0.50%の利上げとみる向きもある。

政策金利の見通しをより反映しやすいとされる米2年物国債利回りは1月18日に1年11か月ぶりに1%を上回った。このところは原油価格の高騰が進んだことでインフレ抑制のために利上げが進むとの観測が利回り上昇につながったようだ。

金利上昇や金融正常化前倒し観測が嫌気されて、米国株は直近の高値圏から値を崩している。18日にはナスダックは長期的なトレンド判断の目安とされる200日移動平均線を割り込んだ。NYダウも20日に200日移動平均線を割り込んでいる。

ドル円は18日に一時115.06近辺まで上昇した。この日、日銀金融政策決定会合で大規模な金融緩和の継続が発表され、展望レポートで2022年と2023年の物価見通しを引き上げた。ただ、物価見通しを上方修正したものの、市場の想定範囲内にとどまったことで、金融正常化に向けての期待感が後退して円売りが優勢となった。同じ時間帯に米長期金利が上昇したこともあり、115円台に乗せた。ただ、その後は伸び悩みを見せ、日米の株安などを受けて114円割れまで円高が進んでいる。

米国株の下げが続く中でリスク回避の円買いとともにドル買いの動きも出ている。ただ、円買いの動きがやや優勢となってドル円上値の重い動きとなっている。高値圏から調整が続いているものの、113円を大きく割り込むような動きは想定しにくい。こうした中、ドル円は米長期金利の動きや日米の株価を眺めながら113~114円台でのみみ合いが継続するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、112.50~115.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、24日に米1月製造業PMI速報値、米1月非製造業PMI速報値、25日に米11月S&Pケースシラー住宅価格指数、米11月住宅価格指数、米1月消費者信頼感指数（コンファレンスボード）、26日に日本11月景気動向指数改定値、米12月新築住宅販売件数、米連邦公開市場委員会（FOMC、25~26日）・政策金利発表、27日に米第4四半期国内総生産（GDP）速報値、米新規失業保険申請件数、米12月耐久財受注速報値、28日に米第4四半期雇用コスト指数、米12月個人所得・個人支出、米1月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは1.13台を中心とするもみ合いか】

欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁は、20日にラジオでのインタビューで「ECBはFRBほど金融政策の変更を急いでいない」と発言した。ユーロ圏は米国ほどインフレ率が高くないことや景気回復のペースも米国に比べて遅れていることなどが背景にあるとしている。FRBに比べて利上げに前向きでないとの見方から、ユーロドルは上値を抑えられて軟調な動きを見せている。

ユーロドルはドル売りの動きから14日に1.1480台まで上昇したものの、その後は米株安などを背景にリスク回避のドル買いの動きなどを受けて1.1300近辺まで下落を見せた。リスク回避の円買いの動きからユーロ円が下落したことなども重石となっている。年明け以降は1.12台後半では下支えされており、1.13台を中心とするもみ合いになるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1200~1.1500ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、24日に独1月製造業PMI速報値、独1月非製造業PMI速報値、ユーロ圏1月製造業PMI速報値、ユーロ圏1月非製造業PMI速報値、英1月製造業PMI速報値、英1月非製造業PMI速報値、25日に豪第4四半期消費者物価指数、独1月IFO景況感指数、26日にNZ12月貿易収支、カナダ中銀（BOC）政策金利、27日にNZ第4四半期消費者物価、28日に豪第4四半期生産者物価指数、独第4四半期国内総生産（GDP）速報値などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。